

**第2回（仮称）リニア山梨県駅前エリアの
まちづくり基本計画検討委員会
議事概要**

日時：令和6年3月27日（月）13:30～14:30

場所：甲府市役所 6階大会議室

【出席者】 ※敬称略

（委員長） 佐々木 邦明 早稲田大学理工学術院 教授

（委員） 秦 康範 山梨大学工学部 准教授

野原 卓 横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授

手塚 伸 公益財団法人やまなし産業支援機構 理事長

花田 智 甲府商工会議所 理事・事務局長

村松 久 公益社団法人やまなし観光推進機構 専務理事

篠原 勇 一般社団法人山梨県バス協会 専務理事

菊島 貴 一般社団法人山梨県タクシー協会 常務理事

（オブザーバー） 伊良原 仁 山梨県県土整備部 リニア推進監

米本 太郎 東海旅客鉄道株式会社

中央新幹線推進本部企画推進部 担当課長

（事務局） 甲府市リニア政策課・日本工営都市空間株式会社

【次第】

1 開会

2 議事

議題1 第1回の振り返りと第2回以降の進め方

議題2 まちの機能の想定について

議題3 南側交通広場のあり方について

議題4 その他

3 閉会

【内容】

議題1 第1回の振り返りと第2回以降の進め方

○委員からの意見、質問なし

議題2 まちの機能の想定について

○委員

「お金」と「カネ」の違いがあれば教えてほしい。また、お金が落ちる仕組みはその通りであり、リニアは1時間に1本しか来ないので、待っている間にお金を使ってほしいということだと認識している。昔、山梨に来た時にあまりお金を使うところがないという感想をもった。外から来た人からすれば、お金を使いたくなるような満足度の高いサービスを提供する必要がある。

→「お金」はそこで支払うイメージ、「カネ」は投資のイメージを持っている。
(事務局)

○委員

まちの機能について将来想定される様々な分野があると思うが宿泊について記載は不要か。

→具体的な機能（宿泊や商業等）は記載していない。カテゴリでは立ち寄りや待ち時間の中で滞在というイメージを持たせており、その滞在中に宿泊を含めている。（事務局）

○委員

議題2と議題3は両方密接に関係した話だと思う。まちの機能を想定した時に、ゾーニングとしてどのように計画するかにより、交通広場の在り方も変わるのではないかと。まちの機能を駅周辺だけで考えると狭く、現時点では資料の通り大括りでいろんな機能を整理し、それをどう評価して、何を残すかの検討が必要になる。評価結果から必要な機能を踏まえることで南側の交通広場の在り方が出てくると思う。また、今回の委員会で決定できないことは理解した上で、資料に記載された様々な機能をフルセットで考えていくのか、現状から評価して絞るか、全く新しい未来を想定して考えるのか、教えてほしい。

→機能の想定を作った主旨は、基盤を考える上で、例えば物流等がターゲットとして想定していないこと等が見え、そこから基盤整備の計画上、大型トラックが多数駅前に流入するイメージではないといったレベルでイメージを持てるようにしたい。基盤整備方針では、具体的な土地利用の機能は示せない考えだが、想定されない機能は整理して、将来想定しうる土地利用に柔軟に対応できる基盤を計画したい。（事務局）

○委員

例えば駅前に大型のアミューズメント施設を誘致し外から客を集めることは

できるが、ただ単に人が増えることが、必ずしも甲府都市圏全体での価値向上になるとは限らない。そのため、甲府中心市街地や甲府都市圏の顔となる機能をリニア駅前に出して、実際の場合とリンクできるかが極めて重要である。その意味で、何の建物が必要かではなく、駅前でなにかを感じて掴んで欲しい人を集めその人達が活躍できる機能を用意することが重要だと思う。そのような人たちからみて駅前にどのような可能性があるかを検討しながら土地利用を考えてほしい。

資料に役割や機能の「分担」と書いてあるが、必ずしも「分担」ではなく「連携」が大切である。南北の価値をお互いで使い合える関係を作ることが大切であり、そうすると南北それぞれ顔が少し双方に滲み出ていたり、甲府中心市街地とリニア駅前がどうリンクするかや、リニア駅周辺全体をどう整備するかも考える必要がある。分担だけではなく連携にも言及してもらいたい。

○委員長

非常にたくさんの触媒となりうる機能を想定しつつ、土地利用の考え方（案）では、特定のターゲットに訴求するといったことが書いてあるので、今後の検討が難しいが、難しいから実現できない訳ではなく、どのように特定のターゲットに尖らせていくかが重要である。まちの機能として尖らせるだけでなく、まちを使う人達が自発的に尖らせていくこともあると思う。その際に周辺とどのように連携させていくかも重要で、周辺への行き易さも必要となり、交通機能も触媒となるまちのためには必要な機能だと感じる。リニア駅へのアクセスのハードルが高いと目的が達成されない。

主要な沿線の人口を含めた説明は非常に良い。山梨県駅の話ではあるが、日本全体の位置付けと合致させてその中で山梨県がどうあるかを考えるとより検討の方向性がクリアになり、他の地域の方からも注目してもらえるようになる。

また、日本全体としては高齢化するが、インバウンド観光の需要の予測があれば、例えば東南アジアからの観光客が増えるのか等を含め、駅前の需要を考えることもできる。これらを踏まえて想定される機能もあることから、バックグラウンドとして検討していく必要がある。

○委員

資料の3スライドで「向上する機能」の中の観光についての内容に違和感がある。例えば、「魅力あるゲートウェイ機能」や「県内の観光拠点への発信拠点としての機能」などのイメージを記載したほうが良い。

→資料を修正する。（事務局）

議題3 南側交通広場のあり方について

○委員

これまで検討されてきた南北交通広場の分担は利用客目線に立っていないと感じる。この場所に不慣れな方がバスやタクシーを使うのに、南北両方に同じような機能があると分かり難い。例えば北側は乗車専門、南側は降車専門するな

ど、役割を分けたほうがいい。

河口湖駅では年間 151 万人（2023.4~2024.2 定期外利用者を観光客と推定）も観光客がバスを利用している。彼らがどのような形でリニア利用に移るのかも想定が必要。一番期待するのは、これまで西方面からのアクセスが悪かったので、リニア開通により西方面の人たちが八ヶ岳を目指す新しい観光のルートができることである。これらも踏まえると、メインはビジネスよりも観光になることを頭に入れながら、駅前のまちづくりを考えていかなければいけない。

→バスも含め乗り降り両方あることは忘れられがちなので是非考えいただきたい。（委員長）

○委員

社会実装の舞台を目標とすることは非常に大切である。山梨県に限らず日本の産業は作るのには上手だが、売るときに社会実装の部分が欠落するのでヒット商品が出てこない課題があるので、社会実装の場は重要。観光もそうだが、新しいスタイルを作っていくときに、突如トレンドが出る訳ではないので社会実装の場が必要であり、その社会実装の先駆けを山梨でやるのが重要と考える。実際にもものづくりをする場や観光訪問地はリニア駅前の外にあるが、それらを実装するためのブレイクが駅前にあるイメージである。

今後、ある意味での産業が増えないと交流、昼間人口も含めて人が増えないので、社会実装するための（知恵が価値を生み出す）知価社会を作る人が集まることが大事なポイントとなる。最近の市場はバリューインコンテキスト（文脈価値）を欲しがるため、大量生産や最先端ではなくそのような視点もあると思う。

○委員

地方の新幹線駅でパークアンドライド需要があるため駐車場が広く立地しているが、それ以外の機能がなにもないことがある。リニア開通は駅とスマートICが新しく整備されるので、千載一遇のチャンスであり、単なる通過や乗換利用だけになるともったいない。リニア駅に来ることで、移動だけではなく、何かの価値やまちとの関連を生み出せるかが重要なテーマである。南北の連携について、南側で想定される土地利用の人が北側の機能にもスムーズにタッチし、いろんな場所に行けることも重要であり、駅に来た人が南側の土地利用にスムーズにタッチし、交流や消費、価値を生み出す行為が行われ、それが触媒となり周辺に展開していくことを実現するためには、スムーズさも大事だが、価値をどのように生み出すかが重要である。つまり、南北の連携を具体的に空間・機能的に使いながら移動と滞在、交流、価値を生み出す行為が連携し合えるかが重要で、いわゆる新幹線駅（駅はあるが、駅しかない状態）になるのは避ける必要がある。様々なものが連携して結節するチャンスなので、うまく形にしてほしい。

最近のSAは魅力的な商品により目的地となり、SAに行くために高速に乗る需要があることも考えると、目的を喚起することも様々なことを生み出すこ

とになるので、その辺りも含め融合させることを考えると価値を最大化できる。

○委員長

いろいろと重要なご意見いただいたので、機能の役割分担もあるが南北一体でどう作りこめるかが大切である。

○オブザーバー

リニア駅の南北は連携して進め、最大限協力してやっていきたい。モビリティの配分については、個別の議論の前に、機能的な面から検討、協議を行う必要がある。

→調整連携しながら進めていただきたい。(委員長)

議題4 その他

○委員からの意見、質問なし